

服飾文化史と私

会員 榎原洋子(北本市 サポーター)

四年ほど前に『しもつけ風土記の丘資料館』を訪れました。様々な展示物の中に「山高帽を被った人物の埴輪」「織機形埴輪」を目にしました。洋裁を50年余り続けている私は、古墳時代に物づくりの原点があったのだと思い大変驚きました。これに刺激を受け服装文化について調べました。

衣服の歴史は先史時代の人々が動物の毛皮を身に着けたことから始まります。そして大和時代に入ると衣料には麻・藤・木綿・絹などを用い、農民は貫頭衣の系統の衣を着用していました。それは梶の木の繊維で織られた白い布(白妙)と考えられていました。衣服の正装は宮廷人中心のもので、朝廷は織物集団を配置し租税として織物を納めさせました。正倉院の「樹下美人像」に宮廷人の女性の服飾の定着してきた様子がみられます。仕立て方は「無双仕立」や「大領」で筒袖に特徴があります。奈良時代の女性の装束としては「仲津姫像」の菱装束に特徴が見られ、着物は「衣」「背子」「裙」に分かれています。この「背子」が平安時代に「唐衣」に展開されていきます。「唐衣」は、重なるの色彩美です。『源氏物語』の「出衣」や『枕草子』の「押出」として作品に記されています。奈良時代から続いてきた菱装束は体の丸みに特徴があり、平安時代後期に入ると固い織物で仕立てられた強装束へと変化していきます。鎌倉時代を代表するのは、政権を掌握した武家の服装で、狩衣・直垂・水干です。一方女性は着流しの小袖姿が定着してきました。

応仁の乱を終えて足利氏が幕府を開いた室町時代は武家の直垂に家紋を大きくつけることが流行し、また庶民の衣服は商業の発達とともに少しずつ華麗さを帯びてきたのは「京下りの千反櫃」の歌に残っています。戦乱の世を統一したとされる安土桃山時代は南蛮貿易で明の技術が入り華麗な世界を現出させました。庶民の服装は、男女共華麗な小袖が氾濫し、この時代特出すべきは合羽の出現です。合羽はいわゆるマントです。封建社会にあった江戸時代は農民の服装が表層社会の着物とは別の発達を遂げます。農民の衣類は、長く使う為にボロの上に新しい布を重ねて刺したり、麻などで裂織をして防寒着にしました。こうした農民服の機能が後世、男女の洋装化の時の媒体と繋がっていくのです。

和服世界から洋服世界に大きな変貌を遂げていくのは文明開化の明治に入ってからです。男性は、洋服の便利さを経験した軍服が一つの動機で、女性はミシンと共に縫製の技術が伝わり、機能性から次第に洋装化の道を歩き始めました。もちろん江戸時代に続く和服の世界は一部の人を除いて主流でしたが、洋服が機能性とお洒落を楽しむ時代に入るのは、終戦後女性達が箆箆にしまってあった小紋・大島・金紗の着物をモンペに直し、そしてブラウスを作り出したことから始まります。称賛すべきは、女性達が物のない時代知恵と工夫で物づくりに励んだことです。NHKの朝ドラ「カーネーション」「とと姉ちゃん」「べつぴんさん」からも伺えます。

こうして調べて見ると衣服がその時代の背景のひとつを語っているとも言えます。現在、私達はたくさんの物にあふれ「断捨離」という言葉まで生まれましたが、もう一度「物づくりの心」を見直す時代に入ったのではないかと、古墳時代の埴輪が語り掛けているように、私には思えるのです。

今後のイベントスケジュール *申込は『JUNO』に応募要項が掲載されてからお願いします。

ホームページ:<http://junosaitama.net/> ブログ:<http://hakutomobulog.at.webry.info/>

- 8月26日(日) 日本の祭り研究クラブ「下名栗諏訪神社獅子舞・飯能市立博物館」 <前号で紹介>
- 9月5日(水) プレミアム講座「新編武蔵風土記稿について」 <今号で紹介>
- 9月12日(水) 友の会主催見学会 藤沢・横浜方面 <今号で紹介>
- 9月29日(土) 古道探索倶楽部 第25回 南与野駅集合 <今号で紹介>
- 10月6日(金) まち歩き研究会 松戸市博物館と21世紀の森と広場 <今号で紹介>

友の会講演会—鎌倉期武蔵国の街道と人・モノ・文化

2018年7月15日 138名が参加して開催

暑い夏が始まりかけた7月15日に博物館講堂で高橋一樹・武蔵大学教授による講演会「鎌倉期武蔵国の街道と人・モノ・文化」が開催され、138名の参加がありました。高橋先生は日本中世史が専門分野で残された文書を解読して中世の政治経済体制の研究を行っています。また、代表的な著作である『東国武士団と鎌倉幕府』の中で「陸・海・河の道と地域—当時の社会に特有の人やモノの移動と集散、その場の特質を解明すること」を大きなテーマとして掲げているように、地域のつながりや当時の交通体系を明らかにすることによって新しい東国の中世史確立を目指しているように思われます。今回の講演会は当初、埼玉県内でも“古道歩き”としてポピュラーな「鎌倉街道」が中世の政治経済状況の中でどのように成立したのかを知りたいという素朴な疑問だったのですが、講演を聞いているうちに、これは中世社会の在り方に関係するような大きな問題なのかもしれないという感じがしてきました。なお、以下はこの日の講演の個人的な感想です。



講演は詳細なレジュメにもとづいておこなわれました。最初に「私が著書『東国武士団と鎌倉幕府』で主張したかったことは<鎌倉ありき>で中世東国の交通体系を考えてはいけないということでした」と基本的な考え方が示されました。これがこの日の講演で高橋先生が一貫して述べていた考え方です。つまり、東国の街道・交通は鎌倉に政権が確立する以前もあるいは政権滅亡以後も存在していたということです。事例としては、古代の実際に使われた地図などによると相模から武蔵を通過して下野や常陸に進む「東山道武蔵道」があったことがわかります。これは古代の東海道と東山道を結ぶ道です。熊谷もこの道に接していたようです。

11～12世紀における南北ルートはこの「東山道武蔵道」だけでなく、相模国府～下野にいたる幹線ルートがあったようで、陸奥までを視野に入れた東西交通の重要な役割を担っていたとの指摘でした。鎌倉は12世紀までの東日本における東西交通の体系から外れているということです。

頼朝による幕府開設が行われた13世紀以後になると都市的発展をとげる鎌倉を軸とした広域的な交通体系の整備が不可欠になり、都市鎌倉を軸とした上野—信濃—下総—常陸への放射状ルートの広域的な交通体系・道路網が完成します。切通の工事と“鎌倉街道”、さらに海上交通路の整備も行われます。河川・海上交通についても新しい視点から考える必要があり、武蔵方面の物流は府中から多摩川と東京湾を通過して鎌倉の海岸に運ばれた可能性が大きいとのことです。

(筑井信明 記)

伊佐沼のハスの花と川越城

友の会・まち歩き研究会 7月6日に開催

7月6日、まち歩き研究会主催の「伊佐沼のハスの花と川越城」が行われました。梅雨に逆戻りの天候のなか当日は小雨が降り続けている状態でした。「雨天中止」でも「雨天決行」でもなく参加を個々の判断に任せるという方法をとりましたので、最終的な参加者は14名となりました。

今回は、今では川越郊外の農業用ため池として使われている伊佐沼で地元の方が維持管理しているハス(古代ハス)の花を見るのがメインです。川越駅前からバスに乗って近くまで行き、



広大な水田の中を伊佐沼用水沿いに歩いて、沼の畔に建つ薬師神社に到着。元はお寺で、明治の神仏分離の際に廃寺になり、薬師神社と称するようになったそうで、神社の横にお地蔵様という日本的に楽しい場所です。さて、ハスの花は、咲いていました。水面から絵に描いたように大きな葉と花を伸ばしています。一面の緑の中の赤桃色の大きな花卉がいいですね。仏教的というか熱帯アジア的な情緒と美しさを感じます。雨の中ですが、葉も花も実に鮮やかです。次いで、川越市立博物館。ここでは川越城のジオラマや川越城も描かれた江戸城図屏風(レプリカ)などが見られました。このあと、川越城の遺構である本丸御殿、三芳神社に残る土塁のあとも見ましたが、やや離れた小高い丘にあったという三層の富士見櫓の跡が、いかにも城跡という感じがして印象深かったです。ここで記念撮影をしました。

<参加者募集>

◆第25回鎌倉街道を訪ねて羽根倉道番外編その1◆

2018(平成30)年9月29日(土)「古道探索倶楽部」

《日時》2018年(平成30年)9月29日(土) 9時30分～15時30分(予定)

《集合》埼京線南与野駅改札口周辺 9:30

《コース》埼京線南与野駅⇒日向不動堂⇒庚申塔⇒西堀氷川神社 ⇒醫王寺⇒内木酒蔵⇒田島御嶽神社⇒田島観音堂⇒寶泉寺⇒細淵家⇒埼京線武蔵浦和駅

《参加費》資料代等300円

《その他》途中にコンビニが少ないので、お弁当と飲物は必ず事前に御用意願います。少雨決行(悪天候時は連絡)。歩行距離は約9kmで、史跡巡りをいれると10km少々です。歩きやすい服装・靴でご参加ください。

《問合せ先》前日まで犬走(いぬばしり) 048-756-5634 当日 小俣(おまた) 090-3436-9017

《参加申込み》9月25日(火)までに、普通ハガキに氏名・住所・会員番号・電話番号(ご自宅・携帯とも)を明記して 〒339-0058さいたま市岩槻区本丸3-8-17 犬走東道あて

*7月28日(土)に予定しておりました第25回イベントは、酷暑の為、9/29(土)に延期致しました。申込みいただいた全員に延期の旨、御連絡いたしました。つきましては、第25回イベントを改めて募集致します。秋たけなわの候、従来のコースに「内木酒蔵、細淵家住宅」を追加充実いたしました。奮って御参加願います。

◆松戸市立博物館と「21世紀の森と広場」◆

2018(平成30)年10月5日に「まち歩き研究会」

《期日》2018年(平成30年)10月5日(金) 10時00分～15時00分 約2時間弱の(気軽な)散歩になります

《集合》JR武蔵野線 新八柱駅 改札出口 10時 集合 雨天開催(各自の判断)

《費用》交通費各自 参加費用300円。他に博物館入場料(300円)など。公園は無料。

《持物等》飲物・お弁当など持参(園内のパークセンターで休憩できます)

《概要・行程》松戸市立博物館を見学し、その後、隣接する公園内を自由に散策します。博物館では25周年特別展『ガンダーラー仏教文化の姿と形』を開催中です。21世紀の森と広場は、北総台地と江戸川低地の境界の谷戸地形を利用した50.5haの自然公園で多くの植物、野鳥が観察できます。行程は、新八柱駅⇒さくら通り(日本の道百選)⇒松戸市立博物館(特別展開催中)⇒21世紀の森と広場⇒新八柱駅。

《申込・問合せ》①なるべく「ホームページ」の「申込フォーム」より送信フォームをお願いします。

②Eメール(筑井): pu8n-tki@asahi-net.or.jp ③FAX: 048-470-2758 も可能

～湘南の歴史探訪～

東海道藤沢宿の古刹時宗総本山遊行寺

日本三大弁財天江島神社

かねさわ

金沢北条氏ゆかりの称名寺と神奈川県立金沢文庫

〈見学コース〉

- ・通称“遊行寺”の名で知られている「藤澤山無量光院清浄光寺」、「国宝絹本着色一遍上人絵伝」を収蔵する宝物館も見学します。
- ・宗像三女神を祀る「江島神社（辺津宮・中津宮・奥津宮）」、その辺津宮奉安殿に安置されている安芸の宮島、近江の竹生島と並び日本三大弁財天と称せられる二体の弁財天、「妙音弁財天（通称“裸弁財天”）」と「八臂弁財天」を見学します。
- ・「国指定史跡・称名寺境内」、鎌倉時代随一の浄土式庭園と、鎌倉時代の武家文化を伝える称名寺の文化財を中心に収蔵している金沢文庫を見学します。
- ・昼食は江の島の「海旬処・魚華」で、ご当地名物の“生しらす丼”を賞味します。
- ・江の島から称名寺・金沢文庫への移動は、稲村ヶ崎や由比ガ浜など鎌倉の景勝地を経由します。

〈行程予定〉

大宮--首都高--横浜新道--遊行寺--江の島・江島神社奉安殿--昼食(海旬処魚華)
-- 一般道(上述)--称名寺・金沢文庫--首都高--大宮(18時半頃帰着予定)

〈ご注意〉遊行寺では48段のいろは坂、江の島では朱の鳥居から弁財天までかなりの石段を上りますので、**必ず歩きやすい服装・靴でお出かけください。**(弁財天までエスカレーター利用可能。但し、料金は利用される方ご自身でご負担ください。)

日 時：平成30年(2018年)9月12日(水) 雨天決行

出 発：午前8時00分(時間厳守・発車時間です)

集合場所：大宮駅西口・ソニックビル西側(友の会旗を掲げています)

参加費：7,000円(当日集金)

〈ご参加のお申込みは～〉

- ・締切り：8月31日(金) ・定員：45名(先着順)
- ・会員限定ですがご家族、ご友人は参加できます。
- ・申込方法：往復はがきに、会員番号・氏名・**年齢**・住所・電話番号(できれば携帯)を記載して下記宛先までお送りください。(年齢の申告により金沢文庫の入館料が割引になります。)
- ・宛先：〒330-0852 さいたま市大宮区大成町3-503-4 高瀬敏男 宛
- ・座席希望・集合場所地図希望・昼食で生しらすダメな方はハガキに付記してください。
- ・見学会に関するお問い合わせと当日緊急連絡先：090-9104-2979 事務局 高瀬敏男

新編武蔵風土記稿について

“見どころ” “読みどころ” を知る

古代各地の地誌として成立した古風土記に倣って、幕末に昌平坂学問所で編纂された新編武蔵風土記稿は武蔵国の地誌を知る重要な手掛かりになるものです。9月4日からはその一部が第4室で美術展示されます。当館の誇る収蔵文化財に親しむためにもプレミアム講座は絶好の機会です。地域別の記述内容の濃淡や、明治になって赤本として流布する際の表現の変化など、“なぜ？”がいっぱいのお話を期待します。

講師の杉山さんは、日本近世史(特に近世交通史)がご専門。当館の学芸員経験が長く、副館長として館の運営全般にもご尽力された後、県立文書館の館長を務められ、この4月に当館に戻られました。今年度は特別展・企画展を広くサポートされます。

講師 杉山 正司 氏 当館主任専門員兼学芸員

とき 9月 5日(水) 13:30~14:30

ところ 当館講堂

ご参加無料

申込方法: 他のイベントとの混乱が生じやすいため、下記の点にご注意ください。

通常ハガキに、開催日、イベント名・住所・氏名・電話番号・会員番号を明記。

締切: 8月29日までに、下記の宛先へ必着でお願いします。

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

返信はいたしません。 お申込みいただければ、ご参加いただけます。

会員限定ですが、会員からの同時申込により、ご家族、お友達にご参加いただけます。